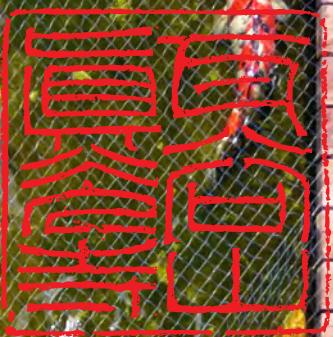
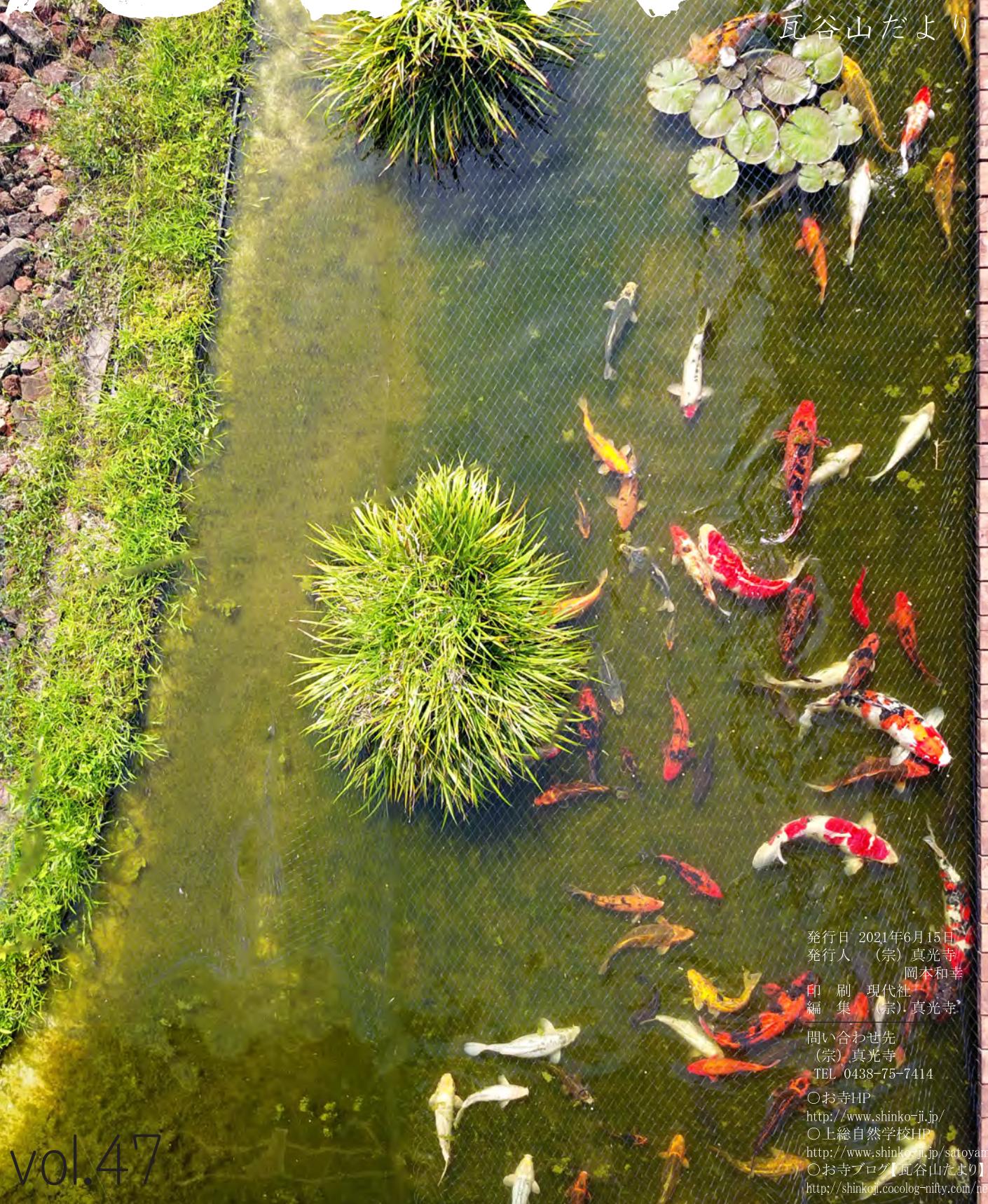


# 瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2021年6月15日

発行人 (宗) 真光寺

岡本和幸

印 刷 現代社

編 集 (宗) 真光寺

問い合わせ先

(宗) 真光寺

TEL 0438-75-7414

○お寺HP

<http://www.shinko-ji.jp/>

○上総自然学校HP

<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>

○お寺ブログ【瓦谷山たより】

<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.47

当地では、三月に入ると早くも初夏のような陽気となり、お彼岸の中日には桜が満開となりました。そして四月に真夏日を記録したと思ったら、五月晴れもそこそこにぐずついた空模様が続き、まさかと思いつつあわてて梅雨入りの準備を始めたような次第です。例年にも増して季節の移ろいに追いつくのに手一杯で、毎日が早送りのように過ぎていきますが、こうした異変も地球温暖化の影響だとすれば誠に恐ろしいことで、大雨や台風のシーズンを目前に、被害がないよう祈るよりほかありません。

森林や農地の保護、開発の抑制、暮らしの見直しなど、私たち一人一人が少しでもできることをやらなければ、温暖化を止めることはできません。かといって生活のためには生産や消費は必要不可欠です。地球規模の大きな問題ではありますが、日頃からの自覚と努力が大切なのだと思います。この日常を少しでも良くしようという意識を持ち続け、わずかずつでも前進していきたいものです。

さて当山には桜がいつたい何本植えてあるのだろうと思い立ち、数えてみると、約三百本ありました。平成六年の入山時には十本程度だったことを思えば、植えに植えたものだと深い感慨をおぼえます。うれしいことに、今年は袖ヶ浦市の広報紙の中で、市内の桜名所マップの片隅に加えていただきました。

年々大きくなり、素晴らしい花を咲かせる桜に続き、コブシ、ハナモモ、ミズキ、エゴノキ、オオデマリ、ヤマボウシ、ヒメシャラなど山の木が次々に咲いて、ツツジやサツキ、アジサイなど庭の木がそこに華を添え、真光寺を彩っています。もうすぐ百日紅（サルスベリ）も咲き出しますよ。いよいよ夏の到来です。

桜など、バラ科の植物は毛虫が付きやすいといわれます。当山は桜の木が沢山あるのに、これまでほとんど消毒をしたことありません。毛虫に悩まされたことがあまりないので、これはおそらく当山に住み着く雀たちのお陰ではないかと思っています。

真光寺の五月は雀の旅立ちの季節です。朝はチュンチュンという鳴き声に包まれ、頭が痛くなるほどです。当山の伽藍は伝統建築で、鬼瓦など、

営巣できるところがふんだんにあります。その上、樹木葬墓地の桜につく毛虫は雀の大好物で、えさ場まである真光寺は彼らの天国ですが、営巣のために運んできた藁やビニール紐などが境内に散乱し、また糞公害にも悩まされるのですからたまつたものではありません。

ようやく巣が完成すると、今度は卵や雛が落ちるのではないかとひやひやしながら見守ります。そして巣立ちを迎えることができても、飛ぶことに慣れていない雛たちは池に落ちたり、寺猫に捕まってしまったり、どちらともなく現れたカラスにさらわれたりして、あっけなく命を失ってしまいます。なきがらを見つけたときは、「せつかく成長したのに、かわいそうだな」と思いながら埋葬してやらねばなりません。苦難を乗り越えて生き残り、新緑薫る野山へと健気に旅立っていく雛と、不運にも命を落とした雛、どちらの姿にも生きることの大変さを感じます。

春は多くの命が生まれる季節、命の息吹を実感する季節です。さらに言えば、多くの生き物の生存競争を目の当たりにして、命の残酷さを感じる季節もあります。私たち人間も雀と何ら変わらない、はかない命を生きています。日々の生活の中で感じることはあまりありませんが、コロナ禍の不安からなかなか抜け出せないためでしょうか、力強い命の萌芽に感動しては、大自然にあたたかく包まれて生きていることを再認識しています。忘れがちですが、誰しも多大な自然の恩恵の中で命を紡いでいます。見えないものの姿なき姿を見て、聞こえない声なき声に耳を澄ませる感性は、私たちの生き方を整えたり、変えたりする上でとても大切なことだと思いますが、いかがでしょうか。

相変わらず苦しい日々が続いておりますが、ワクチン接種も徐々に進んでいるようです。無理のないよう我慢しつつ皆で力を合わせ、頑張って乗り切っていきましょう。お盆の行事は様子を見ながらの執行となります。が、状況が落ち着きましたあかつきには、皆様ぜひご参詣ください。

## ◇春季彼岸会

三月二十日、午前に縁の会彼岸会、午後に山門彼岸会を厳修いたしました。

去年の秋彼岸会同様に、マスク着用やアルコール消毒、座席の間隔を広く空ける等の感染予防対策の他、食堂にプロジェクター及びスクリーンを設置。薬師堂と食堂の二ヶ所で法要に参加できるようにいたしました。



焼香は食堂の参列者と入れ替わりで行いました



当日は心地よい春の陽気となりました



映像のプロの方によるリモート配信



食堂で法要に参列する檀信徒の皆さん

（お知らせ）  
春彼岸会法要はYouTubeでライブ配信も行いました。お盆の施食会法要、秋彼岸会法要でも配信する予定ですでの、ご参列できない方はYouTubeの曹洞宗真光寺チャンネルをご登録いただき、是非ご視聴ください。（詳しくは真光寺ホームページをご覧ください。）



住職よりお血脉を受け取る



選んだ植木を区画に植えました

植樹祭ではマユミ・ムラサキシキブ・ヤマブキ・コデマリ・オオデマリ・ヒュウガミズキ・イワツツジ・リキュウバイの全八種類の植木を用意しました。参加者はその中から好きなものを選び、ご自身の区画に植えました。昨年は緊急事態宣言発令のため中止となってしまつたので、二年ぶりの植樹祭を皆様とても楽しんでいらっしゃいました。

## ◇四月七日の七日法要・植樹祭

四月七日、午前に生前授戒式及び四月に亡くなられた会員の月例供養を、午後には恒例の植樹祭を行いました。コロナ禍の中ではありましたが、桜が見頃の時期ということもあり、多くの方にご参列いただきました。



## [里山のお寺でヨガ] ヨガ教室生徒さん募集

昨年七月よりスタートしたヨガ教室。真光寺の緑の中で心とからだのリラクゼーションを。

- レッスン日：毎週水曜日 午前10:20～  
毎週土曜日 午後1:00～  
(所要時間約1時間)

- 対象：高校生以上

- ヨガインストラクター：二階堂敦子

- 参加費：1回1,000円

- 申し込み方法：電話またはメール

- 初心者、体験参加、見学受け付けます。

- 申し込み先：二階堂 090-8313-8961  
riku.0911r@gmail.com

※ご要望が多ければ「シニアクラス」を開設する計画もありますので、お問い合わせください。

# 真光寺のアジサイ

## 参道から伽藍まわりの庭園

下の道から伽藍へと続く参道には、織細な優しい雰囲気の白いアナベル。庭園には、ガクアジサイ「墨田の花火」はじめ存在感のある品種もの。シキザキヒメアジサイも山門周囲を彩ります。

真光寺では、何年もかけて桜とともに境内地にアジサイを植えてきました。挿し木も行い、四五〇〇本ほどに増やすことができました。皆さまのご参拝のルートを中心に参道から伽藍（建物）の周囲の庭園、樹木葬墓地の沿道、そして斜面の樹林地に植栽しています。毎年五月の下旬から七月上旬に開花。梅雨時期ならではの楽しみです。

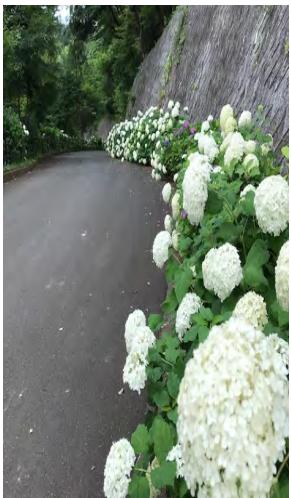
斜面の樹林では間伐を行なつて明るい森として管理し、アジサイを鑑賞しながら散策できる「アジサイロード」の整備を進めています。現在はまだ開園しておりませんが、様々なアジサイに囲まれて、ゆっくりと時を過ごせる場所にしたいと整備に努めています。



樹木葬墓苑の沿道  
開花期間の長いシキザキヒメアジサイを植えました。小ぶりで深いブルーの花を咲かせます。



整備中のアジサイロード斜面



真光寺の  
アジサイいろいろ



アジサイロード完成顛末記 その二

住職 岡本和幸



## 豪雨による裏山の土砂崩れ



日本堂裏の屋外トイレ

平成六年正月の真光寺入山当初より、ずいぶん深い山を背負つたお寺だなと思つていました。急な崖が本堂の裏に迫り、がけ崩れの危険もあります。事実本堂の裏にあつた屋外トイレは物置と化し、裏に回ると半分崩れた土に埋もれていきました。中にあつた古い建具などを処分し、土を除去してなんとかトイレを復活さ

た。十月には晋山式（住職就任式）を控えています。三十名の僧侶と真光寺檀信徒、さらに当時勤めていた東京四谷の東長寺のお檀家様もバスを仕立ててご参加いたただくことになつて、だったので、大いに焦りましたが、晋山式に来てくれた永平寺の修行仲間が前日まで泥を掻き出し、掃除をしてくれて、何とか間に合わせることができました。

年秋の彼岸の頃、豪雨によつて裏山が崩れ、再び中まで泥に埋まつてしまいまし  
た。十月には晋山式



排水路を作る住職

始めました。この時購入したボロボロの中古ユニボ（バーチュアルベル）が、私の相棒となつて力を發揮してくれることになります。

僧侶と眞光寺檀信徒、さらに当時勤めていた東京四谷の東長寺のお檀家様もバスを仕立ててご参加いただくことになつたので、大いに焦りましたが、晋山式に来てくれた永平寺の修行仲間が前日まで泥を掻き出し、掃除をしてくれて、何と

然に浸透するようになつていきました。トイレは水洗でしたが、その水も同じように大きなコンクリート製のマスに入り、浸透するようになります。使う水は、建物脇の未舗装で碎石も躰いていいない山道に垂れ流していましたが、私たちが住むようになつて水の使用量が増えてからは、池はあふれるし、道路に流した水で滑つてしまつて車が上まで上がれません。それを何とかしようと小さなU字溝を買ってきて、据えていったのですが、初めての経験でもあり、なかなか思うようにいきません。手で持てる大きさのU字溝では容量が不足していたのです。

ところがユンボを買ったことで、こうした工事は素人の手仕事から劇的に本格的なものになつていきました。当時はスマホもなく、ネットで調べることもできませんでしたから、買い物ついでに資材屋さんで聞いたり、

に業を煮やし、まずは川沿いの窪んだ土地の竹を伐採し、横にあつた畠を土地交換で入手して、土を人がやつてているのを観察して覚えたりしながらだんだんと上手にできるようになりました。一つ作品ができるると満足感に浸りながら眺めて悦に入り、家内に見せたら思いがけず批評されて反省したりの繰り返しで進んできたのだと思います。

田舎の人は何でもできると、入山当初から驚いていました。ゴルフ場に勤めていたり、農業で使う小屋を自分で建てたり、あるいは村の共同作業で覚えたりしたのだと思いますが、ダンプだつて Yunボだつて、チエンソーダつてだいたい使えるのです。近所の方と檀家さんに手伝ってもらつて裏山を削り始めましたが、それはある種のプロの現場で、私がもたもたしていると邪魔になってしまいます。若かつたせいもあり、ビシンやらないと申し訳ない、そんな思いで Yunボの操作を覚えて、がけが崩れないように山の土を動かしていました。始めてみると大変な作業です。夜中まで近所迷惑にならないよう、水をまいたり、掃除をしたり。考えてみれば夜中にそんなことをしているというのは随分迷惑な話です。そのくらい必死でした。

山を削るのも土を動かすのも、埋め立てをするのも、本来は自治体の許可が必要です。当時の私はそんなことも知りませんでした。あるとき市役所の方が見に来て、ひどく怒られました。「一体どこの業者だコノヤロー！」と言われたので、業者に見えるほど必死だったか、もしかしたらさまになっていたのかもしれません。住職であることを話し、崩れた崖を修復していることを説明したら、いろいろ親切に教えてくれました。敷地内移動の自主施工である点や小規模であったので、おとがめはありませんでした。

いずれアジサイロードに続していく山の整備はこんな日々から始まつたのです。（つづく）

# 袖ヶ浦の歴史

【連載】未来に伝えたいふるさとの歴史Ⅲ

袖ヶ浦市郷土博物館顧問

井口 崇

## 上かずと陸奥（1）

### ■古代の国土軸と西上総

ここ西上総の地は、このシリーズの中でも触れてきましたように、古代国家の搖籃期をとおして、近畿や東海地方と関東地方（東—西）を主軸とした動脈上にあり、考古資料や文献資料から物流と人の移動・移住などについて知ることができます。また、この地は同時に、東西交通の要衝であったのです。また、この地は同時に、太平洋側の地域を経て東北に至る、関東地方と東北地方（南—北）を主軸とする動脈上にも位置し、東西と南北の国土軸の結節点と呼べる地理的な特徴をあわせ持っていたのです。今回からは、古代国家の東北への移民政策、蝦夷と呼ばれた人々が内地へ移配された姿を垣間見ることで、西上総周辺の古代史像の一面を探ります。

### ■ヤマト王権の東北経営

古代の東北地方には、蝦夷と呼ばれた人々が住んでいました。彼らは、東北南部よりも南にいた倭人と異なる文化を持つ人びとでしたが、倭人との接触・交流を繰り返していました。やがて、古代国家が中央集権を進めていった7世紀中頃になると、東北地方への計略的な政策や軍事的な行動が一層盛んになります。

その目的は、交易と勢力範囲の拡大、つまり国土を広げることと人民の支配にありました。その理由は、中央の朝廷から見て化外の地（教化・支配の及ばない場所）にある人びとを野蛮な民（化外の民）と位置付け、天皇の徳をもつて教化するというもので、中国の皇帝

が自らの徳を以て四夷（北狄・西戎・南蛮・東夷）を教化し、文明に導くことを使命とした中華（華夷）思想に通底するものがありました。そしてその方法は、陸奥・越後・出羽の三国の国司に対して与えた特権である「饗給・征討・斥候」によつたとされています。

饗給とは、恭順を示した蝦夷と儀礼的な会食を行い、征討は国境をこえた軍事行動。斥候とは蝦夷の動向を探ることです。これが律令国家の蝦夷政策の基本でありました。

『日本書記』や『続日本紀』等の歴史書は、朝廷側が残したものであるため、公正な記述とは言えないのですが、そこからは7世紀の中頃から9世紀の前半にわたって、断続的におこなわれていた征討や移住の様子を知ることができます。【表1】

### ■辺境の民

時期	名 称	設置等の年代	備 考 (関係する郡・郷、遺跡)
7世紀	淳足柵 磐舟柵 都岐沙羅柵 郡山遺跡	大化3年（647） 大化4年（648） 齊明天皇4年（658） 7世紀中頃～	新潟市信濃川河口付近 新潟県村上市付近 新潟・山形両県境付近？ <b>初期官衙（仙台市太白区）</b> <b>仙台平野周辺地域では、関東系の土器が多数出土している。</b>
8世紀前半	出羽柵 ●富民千戸移住 ●【国郡再編】 多賀城（創建） ●兵士3万人を派遣 出羽柵（移動）	和銅2年（709） 靈亀元年（715） 養老2年（718） 靈亀～養老年間 神亀元年（724） 〃 天平5年（733）	山形県最上川河口付近 <b>陸奥国へ上総を含む6国から</b> 上総国から安房国分立 <b>この頃、亘理郡望多郷成立か</b> 宮城県多賀城市（多賀城碑） <b>騎射習得のため坂東9国から</b> 秋田市へ（後に秋田城と改称）
8世紀後半	桃生城（柵） 小勝城 伊治城 多賀城（焼失） ●伊治城に九千人移住	天平宝字2年（758） 天平宝字2年（758） 神護景雲元年（767） 宝亀11年（780） 延暦15年（976）	宮城県石巻市 秋田県仙北町払田柵遺跡 宮城県栗原市 伊治砦麻呂の乱によって <b>上総を含む7国から</b>
9世紀前半	胆沢城 蝦夷の族長阿豆流為 500人を率いて降伏 志波城 徳丹城	延暦21年（802） 延暦22年（803） 弘仁2年（811）	岩手県奥州市水沢 <b>上総・下総国などから浪人4000人を柵戸として移配。</b> <b>この頃胆沢郡上総郷成立か</b> 岩手県盛岡市 岩手県紫波郡矢巾町

【表1】 7世紀中ごろ以降の主な城柵と移住先の郡郷関係記事

『日本書記』や『続日本紀』等の歴史書は、朝廷側が総称して官衙といいますが、7世紀の中頃（大化の改新の頃）、当時の辺境には、「柵（き・さく）」という施設が置かれました。国衙や郡衙の前身のようなもので、古代の役所（国や郡の役所）のことを国衙・郡衙と呼んでいました。国衙や郡衙の前身のようなもので、これを知ることができます。【表1】

文字通り、木の柵で囲まれた中に役所や軍事的な機能を備えていました。仙台平野などでは、柵や比較的大きな集落の一角が木柵や土塁、溝で囲まれたところがあつて、そのような所から畿内の土器や関東系の土器が出土するといいます。柵の周囲には柵戸とよばれる移民が強制的に住まわされ、彼らを公民として辺境の郡や郷が形成されていたのです。中央政権の支配が及ぶようになつた地域の郡や郷では、城司・兵士、郡司・郷長・移住した公民、移住してきた蝦夷・原住の蝦夷などが暮らしていました。柵はやがて、その規模や機能を増して城とよばれるようになります。そして、その城柵が饗給・征討・斥侯の舞台となつていきました。

### ■陸奥国の望多郷と上総郷

『和名類聚抄』という平安時代の中頃に編纂された百科事典のような書物には、全国の国名・郡名・郷名が記されています。それを見ていくと陸奥国の郡・郷名には、信濃・上野・相模・武藏・下総・常陸・上総・甲斐・駿河といった東国各地の郡郷名と同じものが多くあることに驚きま



陸奥国の望多郷と上総郷の位置

胆沢上総郷については表1に見るとおり、坂上田村麻呂による胆沢城の築造に伴い関東諸国から四千人を柵戸として移住させたことによるものでしよう。

胆沢上総郷

見るとおり、坂上田村麻呂による胆沢城の築造に伴い関東諸国から四千人を柵戸として移住させたことによるものでしよう。

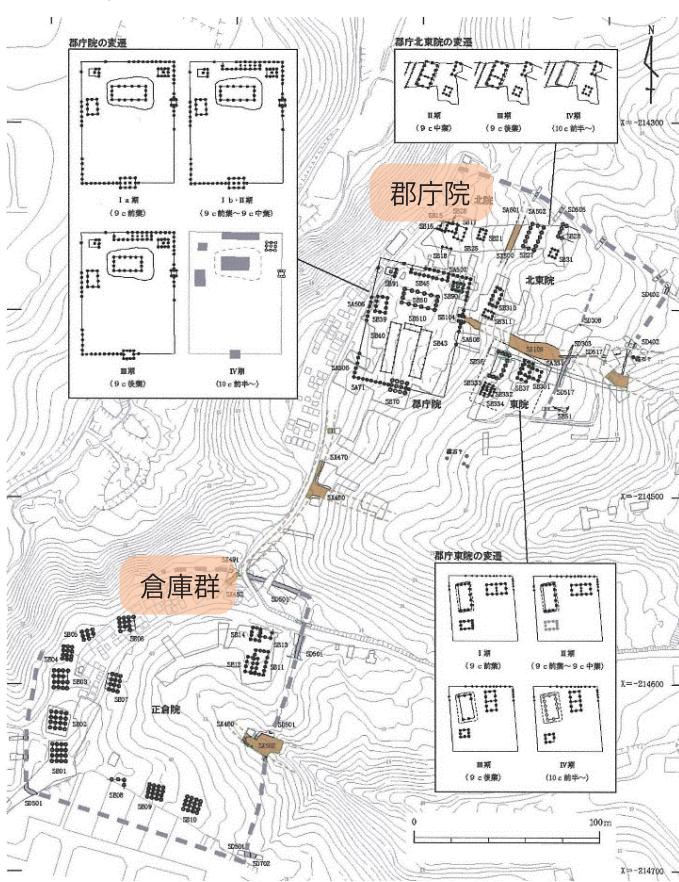
す。それは、故郷の地名を踏襲して郷の名とするほど、その単位（集団）で、東北への移民があつたことを物語っているのです。上総国に限つてみると、陸奥国の亘理郡（現・宮城県亘理町）には望多（まぐた・もうだ）郷があり、胆沢郡には上総郷（現・岩手県奥州市水沢）があります。

『続日本紀』には、●靈龜元年（715）五月 相模・上総・常陸・上野・武藏・下野の六国の富裕な民千戸を陸奥国に移住させた。●養老二年（718）五月 上総國の平群・安房・朝夷・長狭の四郡を分離して、安房国を設置した。陸奥国の中城・標葉・行方・宇太・亘理・常陸国の中城・標葉・行方・宇太・亘理。この記録があります。このことから、後に和名類聚抄に掲載される亘理郡望多郷は、奈良時代前期に行われた国・郡の再編と深く関係し、この時に上総国の中城郡（望陀郡）から集団的な移住があつたと考えられるのです。

宮城県亘理町には、三十三間堂官衙遺跡という国指定の史跡があります。亘理郡衙

は、阿武隈川河口に近い小高い丘の上にあり、北側にある郡庁院、東院・北東院・北院からなる区域と、南側にある倉庫群（正倉院）区域が残り、整然とした郡衙の姿を示しています。この郡衙は、9世紀前半以降のものとされていますが、すでに成立していた望多郷の移民たちもその造営に関わっていたものと思われます。

胆沢上総郷については表1に見るとおり、坂上田村麻呂による胆沢城の築造に伴い関東諸国から四千人を柵戸として移住させたことによるものでしよう。



亘理郡衙遺跡・史跡三十三間堂官衙遺跡 整備基本計画(案)に加筆

### ■東北経営のバックグラウンド

7世紀から9世紀にかけてのおよそ200年の間の東北経営は、坂東諸国の膨大な負担によつて成り立つていました。多賀城での三万人規模の軍事演習「神龜元年（724）」、騎兵千人による奥羽連絡道の建設「天平九年（737）」もありました。物資の調達と輸送面でも多賀城建設時には、綵帛一百疋・純千疋・綿六千屯・布一万端を坂東全域から追徴しています。絹や布（麻布）などの織維製品は当時の役人等の給料でもあり、蝦夷への饗給にも欠かせないものでした。また、安房・上総・下総・常陸には、宝亀七年（776）に舟五〇隻を負担させています。北上しながら柵や郡・郷を設置し、支配領域の拡大を図るために、大量の兵糧米をはじめ諸々の資材が必要で、その輸送の役もまた大きな負担となつっていました。

坂東は、律令時代ともいわれる、奈良・平安時代の東北への領域拡大に際しての、人的・物的・文化的なバックグラウンドであったのです。（次号へつづく）

# 上総自然学校（里山再生活動）

## 田んぼ作業、畑作業



お寺の畠一面に自然薯を植え付けています。

今年は二五〇〇本を栽培する予定ですが、本数が約一、七倍になつたことで作業量も大幅に増加。手作業が大部分を占めており、試行錯誤を繰り返しています。未だ作業半ばの畠を眺めながら、田んぼも畠も智恵と人手が肝心だとつくづく感じます。

そして、コロナ対策を講じて開催した田植えイベント。たくさんの方にご参加いただき、瞬く間に田んぼ一面に苗が植えられていきました。こうして多くの方に支えられて、今年の田植えも無事に終わりました。

また、昨年から始めた自然薯づくりですが、昨年は一五〇〇本を栽培し、ありがたいことに完売することができました。

お寺の周りの集落で田植えが一段落する頃、里山の真光寺の田んぼでは少し遅れて田植えが始まります。近隣の農家さんの作業との兼ね合いでもう少し時間がかかるので、機械を貸してもらつたり、資材を提供してもらつたり、作業を手伝つてもらつたりと、農家さんには何かにつけてお世話をなっています。



田植えの終わった里山は静かです。

## イベントだより



一糸乱れぬ作業で田植えもあつという間。



田植えの出来栄えをチェック。

### 田植え



種は均等に蒔くよ。



長靴の中まで泥んこでも気にしない！

### 畔塗りと稻苗作り



毎年「おおっ！」と声が出ます。



お母さんも花よりおたまじゃくし。

お花見トレッキング

里山の春を散策しながらお花見も出来るこのイベント。いつも桜が今年も花を咲かせているのを見ると、ホッとします。子どもたちは花に見向きもせず虫やおたまじやくしを見つけ楽しみでいました。

## 自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております!

- ・6月20日（日） 田んぼの草取りとホタル観賞
- ・7月 4日（日） イトトンボの観察会
- ・7月31～8月1日（土～日） 里山の昆虫観察会
- ・9月12日（日） 稲刈り

- ・10月3日（日） トンボの観察会
- ・10月9日（土） 収穫祭
- ・10月24日（日） キノコの観察会と秋の収穫体験
- ・12月12日（日） 餅つきとしめ縄お飾りづくり

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

瓦谷山だより

上総自然学校フィールドの希少な生き物たち  
第五回・キキョウ

第五回・キキヨウ

詩人 大島 健夫

秋の七草のひとつとされ、日本全国に分布し、誰でもその名前くらいは知っている植物、キキョウ。しかし、野外で実際に自生するものに出会う機会は、非常に稀なものとなっていました。現在、キキョウは、環境省のレッドリストでは「VU（絶滅危惧Ⅱ類）」、千葉県のレッドリストでは「A（最重要保護生物）」に指定されています。

紋のひとつとなっています。桔梗紋は美濃源氏系の氏族がよく用いており、明智光秀の家紋もこれだったのは有名なところ。本能寺の変の際、寺に攻め込まれたのに気づいた信長が「敵は誰か」と問い合わせ、森蘭丸が「桔梗の紋です」と答えるシーンは、『信長公記』の中でも劇的なやりとりです。桔梗の紋、という言葉から、信長は全てを悟るのです。

千葉県の歴史にも、キキョウは少し変わった形で関わっています。朝廷に反旗を翻し「新皇」を称した平将門の愛妾に「桔梗の前」という人物がいた、という伝承があります。朝廷に反旗を翻し「新皇」を称した平将門の愛妾に「桔梗の前」という人物がいた、という伝承があります。

が野生絶滅の道をたどるとともに、なぜ鮮やかな水色を桔梗色というのかということを人々はリアルな実感とともに理解することができなくなり、「桔梗の前」という名前から、キキョウの花のような姿の女性を想像するともできなくなります。そして、キキョウという花の名前も、「桔梗色」「桔梗紋」という言葉も「桔梗の前」という人物も、ただの記号となってしまうのです。生き物が消えていくことは、この国の人々の心の豊かさのベースが損なわれることでもあるのです。

手入れされた半自然の草地が残る上総自然学校フイールドには、今年も夏になるとキキョウの花が咲くことでしょう。山野草は、家に持ち帰るより、野山に育つ姿こそが最高に美しいものです。来年も再来年も、そのあともずっと、川原井の里山でキキョウが咲き続け、そして、その周辺の野山にも自生のキキョウが増えていったら、文化としてのキキョウは、その力をほんの少し取り戻すことができるかもしれません。どうか、決して掘つて持つて帰ることのないようにお願いいたします。

キキヨウの減少の大きな要因は、二つあります。ひとつは、観賞目的でやたらと採掘されてしまうことで、これは野生ランの仲間やリンドウの仲間など、見た目の美しい植物に共通の減少要因です。二十世紀後半に起きた「山野草ブーム」は、それまでは普通種だった実に数多くの植物を、絶滅の縁に追い込んだのです。

そして、もうひとつ大きいのが、本種の生育に適した、定期的に手の入っている反自然的な草地、例えば茅場のような場所が、各地で消滅してしまったことです。

この桔梗の前は、将門に深く愛された女性でしたが、土壇場で将門を裏切って、将門討伐のために朝廷から差し向かれていた俵藤太秀郷に内通し、それがために将門は討たれてしまします。そしてそれを知った桔梗の前自身も、自ら命を絶つのです。

この伝承は、どこまでが本当の歴史的事実なのかはわかりません。しかし、房総半島には将門の遺臣の子孫とされる家系が数多くあり、その中には現在でもその伝承を残している家系がかなりあることは間違いないのです。現に、私の小学校の同級生にすら、庭には絶対にキヨウを植えない、という家がありました。

キキヨウ科 Platycodon grandiflorus

産業的、あるいは生活面での役割を失い、手入れをされなくなつたり荒れ果てたりしていったのです。要するに、

キキヨウが減ったのは、一方では人間が里山に手をかけなくなつたことで生える場所がなくなり、また一方では、それでも残つたものを人間が掘つていつてしまつたから、ということになります。情けないのですが、いまではキキヨウは、たまご生産を見つけると、「おおつ！」

ですが、このまま  
キヨウが減少して  
いくと、遠くない将  
来、それらは全て過  
去のことになつて  
いつてしまふので  
しょう。

大島健夫

環境省レッドリスト・VU（絶滅危惧Ⅱ類）  
千葉県レッドリスト・A（最重要保護生物）

と驚くような存在になつてしまひました。数年前の夏、上総自然学校フィールドで初めてキキョウを見つけたときも、「おおっ！」となつたものです。

キキョウは、この国の人々の文化の中に、深く静かに入り込んでいます。

キキヨウの水色は、「桔梗色」と呼ばれ、その五弁の花は、図案化されて「桔梗紋」となり、よく知られた家



毎年、咲いてくれているのを見つめた時の喜びは格別です

詩人。一九七四年千葉県生まれ。二〇一四年、二十四時間ワンマン朗読ライブ完遂。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン二〇一二六優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉県生物多様性センター勤務。環境省希少野生動植物種保存推進員。近著「外来生物のきもち」(メイツ出版)好評発売中。

# 縁の会施食法要のご案内

縁の会お盆のご供養(施食法要)を行います。厳しい暑さの時期ではありますが、近在の寺院僧侶をお迎えし、先祖代々のご供養、故人のご供養、新盆精霊のご供養、両親縁者など皆さまのご供養をいたします。また、亡くなられて初めてお盆にあたる精霊には、特別なご回向をいたしますので新盆家のご縁者の皆さまは、ご参加くださいますようご案内申し上げます。本年も感染予防対策として、各座とも薬師堂と食堂に会場を分け修行いたします。

◇7月7日（水）

11時 授戒式  
月例供養  
13時 施食法要

◇8月11日（水）

午前の部  
10時半 受付  
11時 施食法要

◇8月11日（水）

午後の部  
13時 受付  
13時半 施食法要

## ●お申し込み事項

①出席者のお名前、人数、お弁当の数（お一人1,000円）

大勢での御参列の場合には合同法要とは別に日時をお取り下さいますようお願い申し上げます。

ご自宅へもお伺いできますので下記新盆供養のご案内をご覧ください。

②出席の日時

③送迎の有無（お迎えの時間は裏表紙をご参照ください）

④花塔婆供養の有無（1本 2,000円）

花塔婆のお申込は事前に同封のFAX申込用紙またはお電話にてお申し込みください。お申し込みの際は、建てる方のお名前と、どなたの為のご供養かをお知らせください。施主名の連名はお受けできません。

## ●ご供養のお布施について

新盆精霊供養の方、一般参加の方どちらもお布施は随意ですが、新盆精霊の供養の方は30,000円～50,000円程度、一般参加の方は3,000円～10,000円程度を目安にお包みください。

## 新盆供養のご案内

亡くなられて四十九日を過ぎ、初めてお盆を迎える方は新盆（初盆）にあたります。家族一同で御靈を迎えてご供養し、お盆のひとときを大切に過ごしましょう。

上記の施食法要はお寺での合同供養となります、ご希望に応じて個別でいつものご法事と同じ要領で新盆のご供養をいたします。また“故人の好きだった自宅で御靈をお迎えしたい”という方や“時節柄自宅から出たくない”という方はご自宅に僧侶が出向きご供養いたします。お邪魔する時間は40分程ですのでお気軽に申し付けください。

8月16日までがお盆です（お盆前後はお受けできます）ご都合の良いお日にちをご相談ください。

ご供養のお布施については30,000円～50,000円程度（車代3,000円～10,000円程度）を目安にお包みください。

# 行事予定

各行事とも感染症予防をして開催しておりますが、今後の状況により規模の縮小や中止の場合もございます。お申し込みの際にご確認ください。

各行事の送迎時間につきましては、裏表紙《送迎のご案内》をご参照ください。

行事	日時
----	----

## ●恒期法要

山門大施食（檀信徒）	8月 9日（月祝）	14時より
縁の会大施食（縁の会）	8月 11日（水）	11時より・13時半より
山門彼岸会（檀信徒）	9月 23日（木祝）	14時より
縁の会彼岸会（縁の会）	9月 23日（木祝）	11時より

## ●定例行事

戒名を考える会	9月13日（月）・12月 1日（水）	昼食付3,000円 11時より戒名について説明、昼食後ご自身で戒名を決めます。
聖典講読の会	7月27日（火）・9月30日（木）・10月14日（木）・11月25日（木） 各月とも11時より	昼食付3,000円
囲碁の会	12月16日（木）～17日（金）	1泊3食付8,000円
仏像彫刻教室	毎月第1、第3水曜日	13時半より 1回3,500円 教材費別途
坐禅会	毎月第2、第4土曜日	15時より 参加費無料 初回の方は坐り方の指導がありますので事前にお申し込みください。
七日法要 (授戒式・月例供養)	7月7日（水）・9月7日（火）・10月7日（木）・12月7日（火） 各月とも、11時より授戒式月例供養、終わって昼食。午後はご希望の方のみ写経や写仏、坐禅ができます。ご参加にはお申し込みが必要です、お電話にてお申し込みください。	
縁の会総会	11月3日（水祝）	11時より総会、月例供養 詳細につきましては、9月下旬にお手紙でご案内いたします。
ご詠歌練習		新型コロナのため年内はお休みします。来年からリニューアルして再開予定です。

## 法事について

故人のご供養のためにご家族が営むご法事については、従来通りお申し込みをお受けしております。お堂の換気、室内の滅菌など、ご安心いただけるよう努めております。ご無理のない範囲でご検討ください。墓参は従来通り、いつでもお参りしていただけます。

# 真光寺「里山の新米」ご予約受付中です！

田植えが一段落し、順調に米作りの進んでいる真光寺の田んぼ。今年も新米のご予約受付を開始いたします。毎年9月末から販売を始め、年明けには完売してしまう里山のお米。自然の恵みで育て、自然を育む里山のお米を今年もたくさんの方にご賞味いただければ幸いです。

## 令和三年 年回表

百	五	三	三	二	二	十	十	七	三	一
回	十	三	十	三	七	三	回	回	周	
回	七	三	七	三	回	回	回	回		
忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	
大	昭	昭	昭	平	平	平	平	平	令	和
正	和	和	六	成	成	成	成	成	平成	三十一年・令和元年
十	四	六	十	十	十	二	二	十七		
一	十七	年	年	七	一	七	十一	七		
年	年	年	年	年	年	年	年	年	二	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年		

## — 里山のお米はこんなお米 —

- 有機肥料と自然の水だけで栽培。
- 種もみ消毒以外の農薬を一切不使用。
- 6年連続で200項目の農薬不検出。
- 収益金は自然学校の運営に充てております。

新米のご予約はお電話もしくは

FAXにてお申し込みください。

詳しくは別紙の注文書をご覧ください。



価格（白米）

2kg / ¥1,100

5kg / ¥2,500

10kg / ¥5,000



価格（色々米）

150g / ¥400

300g / ¥600

## 送迎のご案内【午前】

### □電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）  
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）  
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

### □バスの方

#### 【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

#### 【平 日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時40分→袖ヶ浦BT9時30分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

## 送迎のご案内【午後】

### □電車の方

- ・上り電車の方（快速逗子行き）  
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）  
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

### □バスの方

#### 【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時00分→袖ヶ浦BT11時50分着

#### 【平 日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時15分→袖ヶ浦BT12時17分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時00分→袖ヶ浦BT11時50分着

## 各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)